

ミニシンポジウムのご案内

「熟議／対話の政治の可能性 —— 科学と市民の関係を手がかりに」

熟議／対話を踏まえた政治は、いかにして可能になるのか、あるいはどれだけ可能／不可能なのか。

ここでは環境や生命に関するリスク評価や価値観が論点となる 이슈 を例として、その公的意思決定をめぐる試みられている先駆的な対話の取り組みや、日本の政策形成の現状などを紹介しつつ、参加者とともに考えたい。

ご関心のみなさまの参加をお待ちします。

報 告：尾内 隆之（流通経済大学法学部自治行政学科）

コメント：福西 敏宏（群馬大学大学院社会情報学研究科）
犬塚 元（群馬大学社会情報学部）

日 時：2月19日（金曜）10:00-12:00

会 場：社会情報学部棟106教室

【尾内隆之先生の代表的業績】

- ・「未来を“かたる”ことばの諸様相：核燃料サイクル政策論のために」
『科学』（岩波書店）80(2)，2010/2
- ・「使用済核燃料問題に「乾式中間貯蔵」による転回を：原子力政策における聡明な選択へ向けて」（勝田忠広氏との共著）『科学』（岩波書店）79(11)，2009/11
- ・「だれが原子力政策を決めるのか」『科学』（岩波書店）77(11)，2007/11
- ・「日本における「熟議＝参加デモクラシー」の萌芽：原子力政治過程を通じて」、小川有美編『ポスト代表制の比較政治』（早稲田大学出版部），2007/2
- ・「「円卓会議」の記憶を掘り起こす：原子力政策における「合意形成」問題再考」
『思想』（岩波書店）973，2005/5

実施責任・連絡先 政治学研究室（犬塚元）